

製品安全データシート

会社名 大同特殊鋼株式会社  
 住所 名古屋市南区大同町2丁目30番地  
 担当部門 星崎工場 技術室  
 担当者 津野 雅英  
 電話番号 052-611-2523  
 FAX番号 052-611-2528  
 作成・改訂 2004年9月 2日

1. 製品名 : ステンレス鋼および耐熱鋼
- |            |                 |            |                 |
|------------|-----------------|------------|-----------------|
| JIS G 4303 | ステンレス鋼棒         | JIS G 4305 | 冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯 |
| JIS G 4308 | ステンレス鋼線材        | JIS G 4311 | 耐熱鋼棒            |
| JIS G 4316 | 溶接用ステンレス鋼線材     | JIS G 4317 | 冷間圧延ステンレス鋼等辺山形鋼 |
| JIS G 4318 | 冷間仕上ステンレス鋼棒     | JIS G 4319 | ステンレス鋼鍛鋼品用鋼片    |
| JIS G 4320 | 冷間成形ステンレス鋼等辺山形鋼 | JIS G 5121 | ステンレス鋼鍛鋼品       |
| JIS G 5122 | 耐熱鋼鍛鋼品          | JIS G 3214 | 圧力容器用ステンレス鋼鍛鋼品  |
- 大同特殊鋼(株)規格製品及び上記相当ステンレス鋼・耐熱鋼

2. 製品の組成 : 単体/混合物の区分: 混合物 (合金)  
主な成分

成分	含有量 (Wt%)	CAS 番号
鉄 [Fe] *2)	残量	7439-89-6
クロム [Cr] *1), 2)	7~35	7440-47-3
ニッケル [Ni] *1), 2)	0~30	7440-02-0
マンガン [Mn] *1), 2)	0~20	7439-96-5
モリブデン [Mo] *1), 2)	0~10	7439-98-7
銅 [Cu] *2)	0~5	7440-50-8

注1) 成分値は上記成分範囲において、鋼種規格により異なる。  
 注2) 用途により上記主成分以外に微量元素を含むものもある。  
 注3) 詳細はミルシートに記載。

\*1) P R T R法で測定された物質 (第一種指定化学物質) の対象。  
 \*2) 労働安全衛生法の通知対象物質。

但し、本製品は固体金属であるが、7項の「取り扱い及び保管上の注意」を参照方。

3. 危険有害性の要約
- 分類の名称 : 該当する分類 (急性毒性、腐食性、可燃性等) はない。  
 危険有害性 : 現在のところ有害な情報は無い。
4. 応急措置 : 応急措置が必要な事態はない。
5. 火災時の措置 : 不燃性の状態であり、又周囲の火災においても、通常の放水・消火器等の使用に制約はない。
6. 漏洩時の措置 : 形状のある固体である為、該当する事項はない。
7. 取り扱い及び保管上の注意

1) 本製品を加熱、溶融、研磨等の加工等を行い、ダスト・ヒューム形態の金属及び金属化合物等が生じる場合は、成分元素に関わる暴露限界以上のダスト・ヒューム等の影響を受けない様に、衣服や顔面等の適切な保護や、換気措置をすること。(例えば成分元素のMn化合物ヒュームは吸入、経口吸入による急性及び慢性中毒が認められる為である。) 尚暴露限界値については「日本産業衛生学会勧告値」や「ACGIH:米国産業衛生専門家会勧告値」等が適切である。

	<p>2) またダスト・ヒューム等の取集物についてはその形態に応じた危険・有害性を随認の事。(例えば成分元素の酸化物が粉体状になっている場合、燃焼・爆発性を有する場合があること等)</p> <p>3) 本製品を酸洗、脱スケール等の処理を行い金属が溶解する場合は、溶解物質に接触したり・吸引等をしないよう対応する事。</p> <p>4) Pb, To, Se を含有する鋼は切削加工時に微量の蒸発の可能性がある為、マスク等がけするのが望ましい。</p> <p>5) 保管する上で通常の状態では、危険・有害性の面で該当事項はない。</p>
8. 漏洩防止措置及び保護措置	<p>形状のある固体である為、該当する事項はない。</p>
9. 物理・化学的性質	<p>外 観 : 特殊鋼鋼材 (固体)</p> <p>引 火 点 : 該当なし。但し加工により生じた微粉は燃焼、爆発性を有する場合がある。</p> <p>融 点 : 1400℃以上</p> <p>比 重 : 7~9</p> <p>化学的性質 : 水には不溶。弱酸及びアルカリには耐食性がある。 強酸 (塩酸、硫酸等)、高温アルカリには多少溶解する。酸化性酸で不動態被膜が形成される。</p>
10. 安全性・反応性	<p>安 定 性 : 通常状態では化学的に安定している。</p> <p>有害分解物質 : 加熱、溶解、研磨、等加工時には金属化合物を生成する。</p>
11. 有害性情報	<p>: ステンレス・耐熱鋼材としては、現在のところ有害な情報はない。</p>
12. 環境影響情報	<p>: ステンレス・耐熱鋼材としては、現在のところ有害な情報はない。</p>
13. 廃棄上の注意	<p>: 鋼材スクラップとしてリサイクルできる。</p>
14. 輸送上の注意	<p>: ステンレス・耐熱鋼材としては該当する事項はない。</p>
15. 運用法	<p>: 労働安全衛生法 : P R T R 法</p>
16. その他の情報	<p>(1) 危険物データブック (東京消防庁 警防研究会)</p> <p>(2) 主要 1000 種データ特別調査レポート (河外化学技術資料研究所)</p> <p>(3) Metallic Alloys and Harmonization of Classification Criteria (OECD)</p> <p>(4) 化学製品の安全性データシート (ISO 11014-1)</p> <p>(5) 日本産業衛生学会勧告書、ACGIH (米国産業衛生専門家会連) 勧告値</p> <p>(6) 危険・有害物便覧 (労働省安全衛生部監修: 中央労働災害防止協会)</p>

様式 MSDS-SUS-耐熱鋼-改B

【その他】記載内容の取り扱い

1. 記載内容以外の特異な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、加工願います。
2. 記載の危険性、有害性、環境影響評価等に関しては情報提供であり、保証するものではありません。